

平成23年度 練馬区立豊玉小学校 学校評価報告書

練馬区立豊玉小学校

校長 並 木 満 行

1 自己評価結果（教職員、保護者、地域住民の評価結果）

（4：十分達成 3：ほぼ達成 2：やや不十分 1：不十分）

（1）教育目標の具現化を児童の実態から考える（教職員の評価結果から集計）

【学校評価Ⅰ】（教育目標の具現化を児童の実態から考える）

	具体化に向けての重点具体目標 （評価の観点）	評 定 （昨年度）	成 果・課 題・改 善 策 （太字～改善策）（○プラス評価・●マイナス評価）
考 え る 子	1. 人の話をよく聞き、自分の考えを發表できる子になったか	2.3 (2.6)	●授業中の聞く態度が悪くなってきている。普段からの指導をさらに徹底させる。 ●考えをもったり、答えが分かっているにもかかわらず発言しない児童が多い。児童が発言しやすい環境を作る。 ○自分の考えを述べようとする姿勢が育ってきている。 ○朝会、避難訓練等の全校が集まる場での聞き方は全体的に素晴らしいので継続できるようにする。
	2. 基礎基本の学力が定着している子になったか	2.8	○基礎基本がきちんと定着している子も多いが、定着が非常に困難な子が数名いる。定着の低い子に関しては、朝学習や個別指導等をとおして繰り返し学習指導する。 ○漢字力、計算力、書く力等、子供は目標をもって意欲的に取り組んでいる。ただ、個人差が大きいので、その差を縮めていく細やかな指導が課題。宿題や朝学習、個別指導をとおして繰り返し指導していく。
ね ば り 強 い 子	3. 体力のある子になったか	2.4 (2.5)	○運動技能は向上し多くの児童が意欲的に運動に取り組んでいるので、4年間の研究成果を生かしていく。 ●体力はあるが姿勢はよくない。疲労感があっても授業中に伏せることはなおしていきたい。足を床につけ、背筋を伸ばす等の声かけを継続する。
	4. 集中力があり最後までやりぬく子になったか	2.9 (2.7)	●集中力は低下しているように感じる。時間を決めて問題解決に取り組む授業を工夫し集中力を高める。 ○課題解決に向けて集中している時間が長くなった。また、難しい課題もあきらめることなく最後までやろうとする態度が身についてきた。 ○授業中の課題に取り組む姿勢はよくなった。個人差有。

心 ゆ た か な 子	5. みんなと仲よく協力する子になったか	3.0	○仲良くしていこうとする気持ちはある。相手の気持ちや考え方を知ろうとする姿勢を育成する。 ○行事など協力して取り組んだことで、学習面においてもよい雰囲気が広がっている。協力する楽しさを感じている。 ●仲良くはしているが乱暴な言葉が飛び交っている。道徳の時間等をとおして思いやりの心を育てる。
	6. あいさつができルールを守る子になったか	2.2	●よくできる子とできない子の差が大きい。高学年が大きな声で挨拶できるように工夫する。（下級生にもつながるように） ●挨拶する意識は高まってきているが、全員が元気に挨拶するところまでには達していない。声かけして習慣づける。 ○教職員が積極的に挨拶することによって、生き生きと挨拶するようになってきている。

(2) 学校経営方針の具現化から考える（教職員評価結果と保護者評価結果の両面から集計）

【学校評価Ⅱ】（経営方針をもとにして考える）

		具体目標(評価の観点) ○学校の評価 ☆保護者の評価	評 定 (昨年度)	成果・課題・改善策 (太字～改善策)
地 域 を 大 開 切 か に れ し た 外 学 に 校	1	○学校公開等を通して学校の様子を伝えたか	3.1 (3.3)	・学校公開は定着し、たくさん参観がある。 ・学校に対して地域の方々のご協力を得られる意識の高さに感謝している。 地域とのつながりが見られる授業を工夫する。
		☆学校公開等を通して学校の様子が伝えられている	3.5	
	2	○地域の人材活用、地域の教材化、地域行事への参加等はできたか	3.2 (3.0)	・来年度も積極的に地域行事に参加して、 地域とのかかわりを深めていく。 ・地域の活動や、地域行事が盛んに行われていて、児童も進んで参加していると感じる。
		☆地域の教育力を生かした教育活動が行われている	3.2 (3.6)	
	3	○保護者会等を通して保護者の意識を受け止めたか	3.1 (3.2)	・支援の必要な児童に対して細やかな配慮がされている。 さらに支援体制を強化する。
		○家庭や関係機関との連携はとれていたか	3.2 (3.6)	
し教 内職 に員 開が か互	4	○教育目標を共有化し、組織を生かした活動ができたか	3.0 (3.1)	・学年のまとまりを重視して活動を工夫して 学校全体の活性化を図る。
	5	○合同授業、TT指導、専科教諭との協力はできたか	2.7 (3.4)	・TTと連携をとりながら指導できた。 ・専科と学年が連携した児童対応ができるよう

れい たを 学信 校頼				に学年会の時間を有効に活用する。
	6	○他の職種との相互尊重と連携は 図られたか	2.9 (3.2)	・給食室や主事室、事務室から、授業における 教材など協力いただいた。
学 ぶ 素 実晴 感ら でし きさ るを 学 校	7	○道徳の時間の工夫を行い、心の教 育の充実はできたか	3.0 (2.8)	・教材研究の時間が十分にとれなかった。
		☆道徳の時間等を通して心の教育 が十分に行われている	3.2 (3.5)	
	8	○教師としての力量の向上は図れ た	3.6 (2.9)	・ベテランの授業を参観させて指導法や子供と の接し方を学ばせる。 ・教材研究不足を反省している。 ・もっと他の先生方の授業を見て、指導法や児 童とのかかわりを学びたい。 ・個人差に対応することで精一杯。底上げはで きているが、まだ時間がかかる。
	9	○教科の基礎基本の確実な定着を 図ることができたか	3.0	
		☆基礎的基本的な学力の向上が図 られている	3.2 (3.5)	
	10	○問題解決学習、体験学習等を意識 して学習を行っている	3.3 (3.1)	
自 由 と 規 律 の あ る 学 校	11	○いじめ、問題行動等を予防でき たか	3.0 (2.7)	・いじめ対応は素早く行われていた。今後も問 題行動に兆しがあれば、迅速に担任と連携 しいじめ防止に努める。
		☆いじめや問題行動に対して適切 な指導が行われている	3.2 (3.8)	
	12	○児童のよさを認め励ます指導の 実践はできたか	3.0 (3.3)	・全教育活動をとおして、児童一人一人を認め 、自信と意欲につながるようにしてきた。 今後も継続してほめる指導を心がける。
		☆子供のよさを認め励ます指導が 十分に行われている	3.4 (3.6)	
	13	○教師の指示の通る学級づくりは できたか	2.7 (2.8)	・分かりやすい指示、発問を心がけていく。
	14	○自浄作用のある学級集団づくり はできたか	2.7 (2.6)	・トラブルは多いが自分達で解決しようと努力 している。

特 色	15	○縦割り生活班を中心とした異学 年の交流は実践できたか	3.3 (3.4)	・活動が充実しているように思う。高学年が低 学年の面倒をよく見ている。
		☆縦割り生活班等を通して、異学年 の交流が行われている	3.6 (3.8)	・縦割活動は定着している。全校遠足も班長を 中心に上手にできた。
	16	○日本の伝統文化に親しむ活動が	2.8	・講師の先生方のおかげでとても充実した活動

ある教育活動を推進する学校		できたか	(3.1)	となっている。
	17	○言葉を大切にした指導はできたか	2.9 (2.8)	・児童への言葉かけに気をつけ、児童の言葉遣いへの改善意識を育む。
		☆挨拶や言葉遣い等、言葉を大切にした教育が行われている	3.1 (3.3)	・言葉遣いの指導は日々の活動の中で指導し続ける必要がある。
	18	○15分間の朝学習は確実にできたか	3.0 (3.5)	・指導計画にのっとり実践できた。来年度も計画を大切に実施する。
	19	○健康な身体づくりはできたか	2.8 (2.9)	・朝の体育的活動と体育の授業、休み時間の遊びで体を動かすことに興味をもつ児童が増えてきている。今後も体力づくりに取り組む
		☆健康な身体づくりに取り組んでいる	3.4 (3.5)	
	20	○地域とのかかわりはできたか	2.8 (2.9)	・体験活動なども取り入れた学習を深めたい。
	21	○授業改善をめざした研究授業はできたか	3.2 (3.3)	・各学年よい提案授業となった。様々なジャンルの授業で勉強になった。
	22	☆子供の安全確保のための対策がとられている	3.2 (3.7)	・地震対策を中心に安全管理体制を整える。

(3) 教育活動全体を通して考える(教職員の評価結果から集計)

【学校評価Ⅲ】学校評価Ⅰ、Ⅱ以外の教育活動全体から考える

実践における成果・問題点	次年度に向けての改善策
○いじめ対応を今年度と同じように実施していく。	・いじめ調査、児童の状況観察等を通して児童の心の声に耳を傾ける。同時に声を出して訴える、声に出して伝える等の手段を根気よく指導していく。 ・道徳の時間を充実させる。
○体育の校内研究4年目のまとめの1年で、各学年の研究の授業内容が深まりとても勉強になった。	・4年間の研究を基にして、研究内容のさらなる充実に向け全員が同じ考えで研究が進められるように取り組む。
○特色ある教育活動である、日本文化の指導は本校にとって伝統となっている活動なので継続していく。	・日本文化については、今後も5年担任と副校長が連携して計画的に進める。

2 学校関係者評価・地域教育懇談会をととして

3月12日に、地域、学校評議員、保護者の代表をお招きしての「第2回 学校関係者評価・地域教育 懇談会」を開催し、平成23年度の学校評価と次年度の教育計画につ

いての報告と意見交換を行った。

(1) 挨拶について

○校内での挨拶はできているが、地域での挨拶は個人差や保護者の意識の差があるせいか、不十分な面が地域に住む者として感じている。大人の方からどんどん声かけをしていきましょう。

○社会全体の様子を見て、子供の態度以上に保護者の態度が気になる。挨拶と同様に学校から道徳的な部分についての啓発をお願いしたい。挨拶については地域でも実践できるように取り組んでいく。

(2) その他

○子供は親や教師の姿を見て育っているという意識をもってほしい。

○いじめに至らない状況であるならば子供たちに解決させるような取り組みをお願いしたい。

○子供のＳＯＳを早めに察知できる教師の姿勢をもってほしい。

3 来年度に向けて（改善策）

(1) 教育目標の具現化に向けて ※来年度の重点

◎考える子・知（話をよく聞き自分の考えを発表できる子）（基礎基本の学力が定着している子）

1. 研究成果の継承。

○課題提示を工夫し、子供が自分の考えをもてるようにする。

○子供の考えを生かしながら学習を進め、指導者が適切な評価と支援（指導）を行う。

○思考力、表現力を高め、子供が自分で学習が進められるようにする。

2. 評価規準、評価方法を明確にした授業実践。

○単元や題材の終了後には児童一人一人の評価をまとめ、個別指導に役立てる。

3. 朝学習の時間を継続してより一層の充実を図る。

○「聞く力」「話す力」が身につく授業等の取り組みの工夫。

◎ねばり強い子・体（体力のある子）（集中力があり、最後までやりぬく子）

1. 体力向上をめざす。（体育部を中心にして今年度と同様に実施する）

2. 朝会、集会の集合と話を聞く姿勢がとてもよいので、指導を継続する。

※心ゆたかな子・徳（みんなと仲よく協力する子）（あいさつができ、ルールを守る子）

※道徳を窓口としての研究の充実を図り、児童相互の心の交流とかかわりが深まるようにする。

1. 道徳の時間の充実をめざす。

○道徳の指導方法を学び、豊かな心の育成を図れる授業実践ができるようにする。

○体験的な活動を取り入れた授業実践を工夫する。

○挨拶できるように子の育成をめざす。（地域での挨拶を充実させる）

2. クラス遊び等の工夫ができているので、来年度も継続して取り組む。

3. 週番の休み時間の指導が今一步だったので、児童の安全管理体制の再確認する。。

(2) 経営方針の具現化に向けて

◎地域を大切にし、外に開かれた学校

1. 今年度の取り組みを継続できるように、地域、保護者と連携しながら取り組む。

◎教職員が互いを信頼し、内に開かれた学校

1. 巡回相談員、心のふれあい相談員とのさらなる連携を図る。

◎学ぶ素晴らしさを実感できる、研究的な学校

1. ※研究成果の継承。(学校評価Ⅰと同様)

①児童同士がかかわり合い、学びあえる学習環境・生活環境づくりに取り組む。

②指導力向上をめざした研究協議会を行う。(今年度のように)

2. 授業研究がとても充実していたので、来年度も同様な取り組みを行う。

3. 基礎基本の定着に向けて、児童の実態や個に応じた教材を工夫する。

◎自由と規律のある学校

1. 児童一人一人の声に耳を傾けられる時間を確保する。(道徳の時間、学級指導の時間の充実)

2. 心のふれあい相談員、巡回相談員とのさらなる連携を図る。

◎いじめのない学校をめざす

1. 児童の訴えや話をしっかり聞き取り対応する。いじめにつながる可能性がある場合は、早急に保護者との連絡を密におこない、小さな芽のうちに対応する。

2. 児童の言動に常に注意をはらい、児童間の心の安定を図る。

◎特色ある教育活動を推進する学校

1. 「心ゆたかな子」の育成に向けた授業改善。

2. 地域との交流、異学年交流を図る活動が、本校の教育の中核となるように継続させる。

(縦割り生活班活動等の異学年交流)(日本の伝統文化に親しむ活動、昔遊び 等)

3. 体力向上をめざした活動を工夫する。

◎安全面での改善点

1. 緊急対応についての体制の見直し。(大震災への対応)